

VI. 2018年度活動計画案

政治の混乱も含めて、今年度も日本社会の環境をめぐる課題は山積している。

以下の課題は長期的な取組みが必要とはいえ、今何をすべきか、何が可能かを常に問いかけることが必要であろう。たとえば、東日本大震災の対応・教訓は生かされているとは思えない。原発の再稼働、防潮堤、リニア中央新幹線は、事業の意義・妥当性・公正さなどを検討することなしに安易な既成事実の蓄積が進められている。

TPP（環太平洋経済連携協定）、電力の自由化、循環型のごみ処理、地球温暖化対策などの対応が迫られている。これらの対応は日本環境学会こそが中心的、リーダーシップを果たせる課題である。学会の設立趣旨に則って、よりよい環境の保全と充実のために積極的に活動を展開していこう。

今後も、各共同研究プロジェクトや会員個人の研究活動を推進し、その成果を毎年の大会や『人間と環境』誌等をつうじて発表するとともに、さまざまな企画や情宣をつうじて研究成果の社会的還元を図ってゆきたい。また、2009年度から若手活性化プロジェクトを開始し、若手研究者発表大会や若手研究者交流会の開催などに取り組んできたが、これらの活動をさらに発展させていこう。このためにはさまざまな市民、多様な主張、とりわけ若手と女性の参加が今まで以上に望まれている。

昨年度から始まった日本環境学会賞の選考・授与などを契機に本学会の意義・役割を会員と語り合う場にする工夫も必要であろう。これと、研究会、コラムへの参加をつうじて会員拡大も図りたい。

財政の健全性を維持するために、新会員の獲得、会費の高い納入率を維持するとともに、運営の合理化に努める。また、会員の高齢化と定年退職に伴う退会者が増加傾向にあるが、とりわけ若い会員の拡大と学会の組織強化を図っていく必要がある。とくに、若手活性化プロジェクトなどを通じて、若手・院生会員の増加に積極的に取り組む。また、購読会員等の増加にも努めよう。

たとえば、築地市場の移転、憲法、軍学共同研究などの議論は、主義主張が異なると平行線をたどりやすい。平行線を実りある議論にするために、共有の「目的地」が欲しい。主義主張が異なっても共有すべきは「持続的で公正な社会」であろう。社会が崩壊したら、立場や利益の主張どころではない。社会があってこそ人間活動が意味を持つからである。また、人の歴史は民主・公正の追及であったからである。

環境を語る時、「問題の指摘・告発」、さらに、「どのような手段で」、「どうすれば良いのか」、を提案できるように心がけたい。この提案こそ日本環境学会が市民とともに語り合うべき課題であると思う。

- VI-1 定期刊行物の発行
会誌『人間と環境』44巻2号, 3号, 45巻1号を刊行する。
- VI-2 研究発表会等の開催
(1) 年次大会を2018年6月23日~24日に三重大学(津市)で開催する。
(2) 若手研究者発表大会を企画セッション枠へ移行して, 年次大会で開催する。
(3) 総会を2018年6月23日に三重大学(津市)で開催する。
- VI-3 学会の組織化
(1) 会費徴収の増大を図る。会費の納入状況を会誌の発送時に通知し, 会費の滞納を防止する。
(2) 新規会員獲得を促進する。
学会や各種シンポジウム開催時に入会案内を準備して, 個人会員を増やす。
若手企画の積極的な開催により個人会員を増やす。
環境科学に理解のある大学図書館や企業の講読会員を増やす。
- VI-4 編集部
(1) 『人間と環境』44巻2号, 3号, 45巻1号を刊行する。
(2) J-STAGEへの原著, 研究ノート, 特別報告の登載は, 学会誌発行から6ヶ月後とし, 学会外に研究成果を普及するためにも料金は, 引き続き無料とする。
(3) 編集委員会メーリングリストを活用し, 会誌としての質の向上を図る。
- VI-5 共同研究部
(1) 「共同研究プロジェクトに関する申し合せ」に基づく業務を行う。
(2) 各プロジェクトについて, 進捗状況を確認するとともに, 新規立ち上げについて, 本学会との調整を行う。
- VI-6 企画部
(1) 日本環境学会賞について, 総務部と共同で実務的な準備を進め, 選考委員会をサポートする。
(2) 公害や環境に関わる重要課題について, 適宜学会内外と連携しつつ, シンポジウム, 講演会等のイベントを企画・立案し, 開催する。
(3) 企画部内に設置した若手活性化プロジェクトの運営を通じて, 若手発表セッション, 若手研究会等の企画, 実施に取り組む。
- VI-7 情宣部
(1) 会員への情報伝達:2018年度も手間と費用の合理化を図る観点から, ニュースレターを原則として電子メールで配信するとともに, 引き続きメールアドレスの登録を呼びかける。
(2) ホームページの管理:学会の情宣の主要ツールとして, 学会予稿集の掲載などでコンテンツを充実するなど, 重視して取り組んでいく。
(3) 会員用メーリングリストの運用管理:ネチケット違反となる投稿が再び増えることがないように, 今後もネチケットを踏まえた投稿をお願いする。
(4) 国際部と協力して英語版ウェブページの整備を進める。
(5) 学会 Facebook ページの開設・運用など, SNSを活用した学会情報の発信について引き続き研究・検討を行う
- VI-8 国際部
(1) 国際的な研究交流が展開できるように, 海外調査や海外共同研究を実施している会員から情報を収集し, 『人間と環境』に報告してもらうよう働きかける。国際部員も積極的に投稿を行う。
(2) 他の部会との連携を強化し, 国際研究の推進・海外有益情報の収集・発信を行う。
(3) 海外発信力を強化するため, 日本の環境問題あるいは環境研究の現状について, 英文での学会声明の作成に努力する。
(4) 英語版ウェブページについて, 情宣部とも連携しながら, 引き続き内容の充実を図る。